

# RSウイルス感染症

ふくおか耳鼻咽喉科

〒477-0032 愛知県東海市加木屋町2-224-2

TEL (0562) 38-2800

## RSウイルス感染症とはどんな病気？

このウイルスは冬から春にかけて流行し、乳幼児気道感染症の重要なウイルスです。RSウイルス感染症は珍しい病気ではなく、2歳までにほぼ100%が一度はかかるとされています。この病気に十分注意が必要とされるのは、重症化するとまれに肺炎などを引き起こす危険があるためです。特に生まれて6カ月以内の赤ちゃんが感染すると、重症化する確率が高くなり注意が必要です。

## 症状は？

症状は風邪に似ています。軽い症状の場合は1週間ほどで治りますが、せきがひどかったり、呼吸のときにゼーゼーと音がしたりする場合は、すぐに医療機関を受診しましょう。何度でも再感染しますが、一般的に年齢が上がるにつれて症状は軽くなり、年長児以降の重症化はあまり見られません。そのため、大人がかかっても風邪と思ってしまいがちで、知らないうちに乳幼児にうつしてしまうケースがあるようです。

### 一般的な症状

●鼻水 ●咽頭痛 ●せき ●発熱など  
風邪に似た症状

### 重症化した場合の症状

●ひどいせき ●喘息(ゼーゼーとした息) ●呼吸困難  
さらに進むと、細気管支炎、肺炎のおそれ

生後数カ月以内の乳児をはじめ、早産児や生後24カ月以内で心臓や肺に基礎疾患がある小児、神経・筋疾患やあるいは免疫不全の基礎疾患を有する小児などは、特に感染しないように気をつける必要があります。

## 診断は？

1歳未満のお子さん、もしくは入院中のお子さんの場合はノドから菌を採って15分で診断できます。

## 治療は？

RSウイルスに特効薬はありません。二次感染のおそれがあるときは抗生物質を使うことがあります。多くの場合は症状を抑える対症療法がほとんどです。他の「かぜ」と同じく、水分補給・睡眠・栄養・保温をして安静にして経過をみることとなります。脱水があり飲めない、呼吸困難が強い、二次感染が重篤などの場合には、入院が必要となることがあります。

## 予防

くしゃみやせきによる飛沫(ひまつ)感染、もしくは接触感染で広がります。感染力が強く、大人がかかると、周囲の免疫力のない子どもにうつりやすくなります。家庭内での感染が多いとされており、家族みんなで予防の意識を持つことが大切です。予防の基本は、手洗いやマスクの着用。また、RSウイルスは、消毒薬に弱いので、次亜塩素酸ナトリウム(ミルトンなど)、消毒用アルコール、ポピドンヨード(イソジンなど)等での消毒、除菌も効果的とされています。ワクチンの予防接種はありません。

- 子どもたちが日常で触れるものをアルコールなどで消毒、除菌(おもちゃやドアノブなど)
- 手洗い(こまめに行い、せっけんを使って流水で洗う)
- せきをしている人はマスクを着用し、なるべく0~1歳児に近づかない
- 流行期に生後6ヶ月未満の乳児を連れて外出をする場合には、人ごみを避ける。



★症状が急に変わることもあります。疑問な点や困った事がありましたら、なるべく早目におたずねください。

おだいに  
なさってください。

